

第9回芦屋大学図書館稀観書展覧会

まんだら セミナー 曼荼羅にみる仏教的世界観

2026年12月3日(木) 14:00～15:30

芦屋市民センター本館 401 室

無料 予約不要 (先着 90 人)

講師 松井 健

東京大学名誉教授・芦屋大学客員教授



空海(弘法大師)



1949 年生、京都大学理学部卒、京都大学理学研究科中退、理学博士。京都大学人文科学研究所助手、神戸学院大学教養部助教授をへて東京大学東洋文化研究所教授。2015 年定年退職、2022 年から金城次郎館（沖縄県南城市）館長。人類学（認識人類学、西南アジア民族誌）を専攻、退職後は美しいものを手がかりに、学術研究が扱わなかった価値や感性について考えている。

～講演の概要～

人類は原始的な時代においても、それぞれの文化に独自の世界についてのイメージをもっていました。紀元前にインドで胚胎した仏教も、死後の世界までを含む、独自の宇宙観を発達させました。曼荼羅は、密教を中心とした仏教的な宇宙観を縮小して図式として表現したものとと言えます。その歴史、多岐にわたる様式や内容、その儀礼的意味などを検討して、独自の曼荼羅の信仰表現を説明してみようと思います。

まんだら 展示「曼荼羅の世界」

—チベットまんだらと両界まんだら—

2026年12月3日(木)～14日(月)

平日 9:00～21:30 日・祝 17:00 まで、㊤休館

公民館ギャラリー（別館空中通路展示場）



教王護国寺蔵、両界曼荼羅の胎藏界曼荼羅

曼荼羅(まんだら)は、サンスクリット語のマンダ(本質、真髓を意味する)に、所有の接続辞ラがついた言葉で、「本質をもてるもの」とか「本質を図示したもの」を意味します。密教において、重要な宇宙の本質、理想を体系的に示したものです。胎藏まんだらと金剛界まんだらの両まんだらの成立が、体系化された密教である純密の生誕を印づけるとされます。芦屋大学図書館には、チベットまんだらと胎藏・金剛界の両界まんだらの大著が収蔵されています。まんだらについてご覧いただくまたとない機会です。

～ごあいさつ～

芦屋大学学長・芦屋大学図書館 館長 窪田幸子

芦屋大学図書館所蔵稀観書展覧会は、学内外の方々、芦屋市民の皆様にご覧いただくために開催いたしました。この機会をいただきましたことを、心より嬉しく思っております。

主催 芦屋市 芦屋大学

問い合わせ 芦屋市立公民館 芦屋市業平町 8-24 ☎ 0797・35・0700

